



下川



古今和歌集卷第十一巻鏡

恋歌一

歌しらべ

よみ人あきし



郭公のこゝろやしらつきはあや先葉のやももきぬ恋もささるる式

○上 ドシヤウナワケチ物ヤラダラズニワヤアムチヤナ恋ラスルカナ

素性法師

青ふのこゝろは白あふらハおきてゆくハ思ひおろさざらぬべし

○青ニキクバカリテの白あふらタモナイ人ヲ思ウテ 夜ハ子ヲレ

子バオキテ居テ 昼ハ又恋シサニエコタヘイテ消サウニ思ハル

紀貫之

より此門を後にあかくゆゑあはれをくぞくぞく思ひを先にし  
○上 アノ人ヲオレヤトウカラサ思ヒツメタ 又オレガアノ人ヲ思ウハ サイ  
ニヨカラモウを世に川ノ子衆ノヤウニヤルセモナウ思ウ 。子衆云後の譯乃  
せきぞうゆつゝ。あまきつせの中あも  
よごいありてあをさう。さうのさう。

藤原 信長

ふ浪のゆきをわきかふゆゑ船も風ごとくゆりあはれをくぞくぞく  
○浪ノ上ノ人ノトホツタ跡モナイ方ヘイク舟テモ 風ト云物ガサ手ヨリノ  
業内者ギヤソレニラガズハソシテ風ノヤウナタヨリニセウ物サナイワイノ  
船材オササとのふまゝ一 例をもてあま

五原 元方

多ね山あふふつゝつらふ板の雲をくぞくぞく思ひを先にし

○善ね山の色板ノ雲ノコチラニアル山字ヤカ 其山ノ名ノトホリニコナタテ 音  
ニキ、ナカラ 冥ガアツテコエラレ子バコチラニチツトトツテ居ルヤウニ色板ト  
云名ノヤウニ思フ人ニ色トモエセスニ 仰年モタテルカナサテモ早ウ色タイ  
まゝのりゆきを思ふよを思ふもくふふ板あまきん ちゝゝあま  
○バヤウニヨソニハナレテ居テモ 心ハジャウチウカノ人ノ所ハツカリイテ居バ  
つねに 又シテモ、ア、ハ、色タイノヤトサ思ウ ちやいゝゝゝし

はゝゝゆき

之中ハかくくゝと有りれあゝ風のめふるぬくもゑゝかりりり  
○ヨノ中ト云モノハアカウシタノギヤワイ 一アサテトサレ 三、夕一目モ

又タノモナイ人モハヤウニ恋シイヂヤワイ

大近のう田をばむきり日ひういよあてりりき  
糸車お下りぞれりり女のうわのほのうふんはま  
よみてつらりせき 左京のうひのねは

むきりうのうらも神中抄の後のうらり

えどもいづもふんせぬ人乃恋しくいあやぬくはあやぬく

○又ヌデモナシ又タデモナイ人がハヤウニ恋シイヂヤガコレハワケモナイコ  
今日ハ一日シニキニ思フテクラスデアアラウカ

のし

よみ人あしむ

あやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬく

○又タノモナイト分テハハナイハウコゾツレヤワケモナイコヂヤ

云モノハモバツカリコソハイツゾハアハレルシレナレ

モドウコウトエハナイワイナ

あやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬく  
あやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬくはあやぬく

みよのうみ

春日の雪ら涙をてあひ出るる草のうらふえいしきこハも

○春日の雪ノアヒダカラハエテクル草ノキツトバカリ又エソメタヤ  
ウニハツクニキツト又エタカ方ワイノマア

人の花つじはあふまかりてそこぬりはる人のぬに

海ふらみてつらばきき づらゆき

山橋鹿のまゝらふはのうももさししんをさひかりりき

○山ノ橋ノ花ヲ鹿ノアヒダカラスルヤウニウスくと見タ人がサ  
マアサテくゑシイコチヤワイ

野らば もくか

あふらふもゆぬ思ひ乃あやし記きんをふつらるなりき

○何ゾノタヨリニコソ物ハコトツケテヤルモノナレタヨリデモナイハワガ  
思ヒノカハツタコトハハヤウニ思フ心ヲソノ人ニツケルチヤワイカウイフハ  
タヨリニ物ヲコトツケルト心ヲ人ニツケルト云ト詞が同じチヤヨツテサ  
餘材らあしあすいふぬるまこととさぞりか

紅河内躬恒

そり居のそつふをばとらと中そふのそをありし

○そら飛テイク始メテノ居ノ声ヲウツヤウニ人ノ声ヲハツクニチヨツト  
ウテカラ心ガヒタスラウテウテニナツテサテモくお思ヒヲスルコトカナ

ほらゆき

をさるひやわをさるふ形を神のまふきつらひをさるうぬ

○コレホドゑレウ思ウケレバナカくゑハレサウナモヤウハまイコトデ  
タバヤノ中デウカミナリノまイチヨツカラウツヤウニまバツ  
カリウテ月ヨヲタテルコトカナ

よみむらび

かゝる多岐にわたるうらみよふよふをかきていかにばらばらと玉のきよさを  
 ○一筋ヅノ系ヲ合せてモラツナグ緒ニヨラウト思ウテソノ系ヲアチ  
 ラヘコチラヘトヨリカケテモソノガツニ合イテ緒ニテラスバモツナグ緒ニハ  
 何ラセウヅワカズモテウドソナ物デハヤウニウクトスレモモシシ  
 ジウをレズバドウシテ令ガツカウツ  
 餘材おすかふニのう  
 の原より一それらとてさあぐとてんぞつくとよとて  
 へらへ男女れらうかかきこをこくへらふはわらば  
 夕ぐれにやれそとておど思ふゆつをねる人をそよとて  
 ○ユフカタニハヤノ旗手ト云テイロクノ雲が名ヲおチヤガテウドソノ  
 ノタツネノヤウニ何ノ手がリモナイをイラヤトテワハユフカタニレバ

ソノキヲハタテノヤウニイロクサバトサお思ヒラシニスル  
 かゝるあまの思ひみづれてまがらふと妹をうめや人づげはハ  
 ○対<sup>カウ</sup>タテモノミダレルヤウニワシイウクト心ガミダシテハヤウニ思フト云テ  
 妹ハ知ラウカイ人ガ云テキカサズバコレホドニ思フトハ知ハスマイ  
 つまもねんをや神々しくおまのおくといねんかぬとあまのむむ  
 ○三 オキルト云テハナゲキ子ルト云テハシタウテアノアイソモナイ氣ツヨ  
 イ人ラハヤウニ思ウツカヤサテモチチラシイヤドウグ思ウマイ  
 ちんやぢかまじやうのゆづき記一日もあまをかまぬ日をな  
 ○上 ワレハ一日モオヘノチラ云ダシテ思ハヌ日ト云ハナイ  
 ちんやぢかまじやうのゆづき記一日もあまをかまぬ日をな  
 ちんやぢかまじやうのゆづき記一日もあまをかまぬ日をな

○ワシガ糸ハサテケシカラヌ糸デ 虚空へ一パイニフサガツタサウナ サウ  
チヤカシテ 足モヲハラシテヤラウト足ヘド ドツコヘモ行トコロガナウテ  
ナレボウデモハヒガハレテユカヌ

○ハタゴノ浦ノ浪ハオホカタイウデモ立ッガツテモサタマクニハ浪デモ  
タヌ日ハアレドモ ワシガオマヘラヌシウ足ハ又日ト云テハケガナ一日モナイ

○アレアノ夕日ノ新ノサス屋ノ松ノ葉ハハ季子トモ二日ニ色デイトツ云ワカチ  
モナイガテウドツヤウニワイト云ワカチモナイモラアスルカチサテモク  
ヨシ林ニハ初メツづくよ夕つくひきよりあなろくくもよるあまら合し。  
公孫ケ「まびらきといふとまき」夕づくひきよや屋の松のちをきき季子判

よいてく万葉集にも甲よばくひきやとゆりちとのうとあひて、ねを  
よまバ夕つくよとどゆべきさくわとどバ公孫ハ夕づく日とあなふよ  
アしてよ初れ季子ハ夕つくよとゆりちをふつきて判せしれ ねゆ小ねを待  
とる今ゆも譯ハ日とゆりちをふつきて判せしれ ねゆ小ねを待  
小どりなりしてとゆりちハヨあり。そとらハね。

○山ノ陰十川ハシゲウタ木トニカクシテヨラヘ又六世子デケウサニサウサト流レ  
オキル物ヤガワガ糸モテウドツヤウデ 又エヌヤウニカクシテハ居レケド胸  
ノ内ハサウサト流レ流レヤウデソラセキヌウト足ト申セキトマレニテハサナイ  
吉野川ハケシカラヌ早イ川デドウト鳴テ岩ヲ切りトホシテイクヤウニ

○吉野川ハケシカラヌ早イ川デドウト鳴テ岩ヲ切りトホシテイクヤウニ  
スルDOI流レヤガワガ糸モム子ノ内ハ吉野川ヤウレテモ夕トヒコレデ

死スルト云テモ 吉野川ノヤウニ暮ニタテ人ニシラレマイヅ

とあざつをば申すも候をりりてふをねどあまの御瀬をさるまき

○山川ハ早イおナレドコレモもろニハ割カマウテヨドム野モアルト云コヂ  
ヤニワガ急ハナセニ園チヤ激チヤト云ワカキモナニツモ子激ノヤウナコヅイ  
ふまゝトゆゑあはきふのこ流まてしひきまひひきぬとも

○山ガ急サニ上ノ方ヲバイカズニトノ谷バツカリ流レルもトホリニワシモ  
タトコハ今デコヒジニ死スルト云テモウハバアラハハスマイヅ イツ  
マデモ心ノ内デバツカリ思ウテ居ヨウヅ

思ひ物と云きはの山乃つとつじいもびいそをいさききおを  
○の山の 三 口へ急シテイハヌテヨアラレ思ヒタタ時ニツツく急イおラ

人まきび思へむくく〜くれあかの束つむ花の急いむかむ

○人ニシラサズニ心ノ内デバツカリ思ウテ居バキツウジユウナイ コレテハ  
ドウモタマラヌホドニ三四イツワウチダシテノケウ

秋のまは尾花ふきまじりてはまものつ流もやまむあす〜とらむ  
○イヤウニツウチデバツカリ思ウテ居テハトテモドウシテモカウシテモ  
逢レサウナモヤウガナサニシアシテスレバ上イツワウチダシテカ、  
ラウカイ 上ウお夢の尻より〜

コガその〜梅はほつふふまは流〜形をぬへき急もす〜  
○アレコチノ庭ノ梅ノ木ノまゝイ枝デ骨ガナクガワシモアラヤウニ声ヲア  
ゲテナキモセウヤウニ思ハレルホドノ急ラアスレアラレモナイコカナ



あゝ川の心とくぎはるまがどや君ふとひつゝいひがふさる

○夜<sub>レ</sub>モヨヒトヨナラレヌニヨツテはテ居<sub>レ</sub>ヒタモノ郭<sub>レ</sub>ガナクガ  
ア<sub>レ</sub>モワレガ君ヲ思フヤウニ<sub>レ</sub>哀ラシテ子ラレヌコトカイ

三四の白ハ、まが君ふさるてや、こいつゝとつゝささし。

夜<sub>レ</sub>も色<sub>レ</sub>ばあどふぬきぶるかやまのいつまで我身下りえおせむ

○夜<sub>レ</sub>テイウナラテウド家<sub>ノ</sub>マ<sub>レ</sub>テ多<sub>ク</sub>蚊<sub>ヲ</sub>火<sub>ノ</sub> 上<sub>ヘ</sub>アラビテハモエズニ  
イ<sub>ツ</sub>マ<sub>レ</sub>デモクスくトフスボウテアルヤウニワシガ身モハヤウニイ<sub>ツ</sub>マ<sub>レ</sub>デ人ニハ  
ズニ胸<sub>ヲ</sub>モヤシテ居<sub>ル</sub>テアラウ 夜<sub>ヲ</sub>もさぶるゝものおとて  
へい<sub>と</sub>い<sub>ふ</sub>と<sub>い</sub>ふ<sub>も</sub>む<sub>が</sub>お<sub>と</sub>し<sub>秋</sub>もれ<sub>を</sub>とも<sub>は</sub>ふ<sub>そ</sub>れ<sub>も</sub>甲<sub>ト</sub>さ<sub>し</sub>  
えせ<sub>と</sub>と<sub>み</sub>と<sub>し</sub>い<sub>ふ</sub>さ<sub>し</sub>み<sub>を</sub>ぎ<sub>神</sub>は<sub>け</sub>ぎ<sub>ぞ</sub>ぬ<sub>り</sub>ふ<sub>き</sub>い<sub>し</sub>も

○ドウウグ<sub>レ</sub>哀<sub>ヲ</sub>スミイト思フテゆは洗川<sub>レ</sub>デシタミワギヲ 祢<sub>ハ</sub>トウ

ドウウウケナサレヌサウナウイ<sub>ニ</sub>ア<sub>モ</sub> サウカシテ子カラ<sub>レ</sub>哀<sub>ガ</sub>ヤマヌ

あゝれ<sub>て</sub>と<sub>い</sub>ふ<sub>れ</sub>く<sub>い</sub>は<sub>る</sub>ふ<sub>を</sub>く<sub>哀</sub>のみ<sub>づ</sub>れ<sub>の</sub>つ<sub>ら</sub>み<sub>を</sub>ふ<sub>を</sub>と<sub>と</sub>

○思<sub>ヒ</sub>ガ胸<sub>ニ</sub>ツ<sub>ク</sub>坏<sub>ニ</sub>ナルトキ六<sub>声</sub>ヲアゲテア<sub>ハ</sub>レ<sub>ア</sub>、ハ<sub>レ</sub>ト<sub>イ</sub>ヘバ<sub>コ</sub>ウ<sub>ス</sub>コ<sub>シ</sub>  
ハ胸<sub>モ</sub>ユ<sub>ル</sub>レ<sub>ソ</sub>ノア<sub>ハ</sub>レ<sub>ア</sub>、ハ<sub>レ</sub>ト<sub>エ</sub>ト<sub>サ</sub>ナ<sub>ク</sub>バ<sub>哀</sub>ス<sub>ル</sub>者<sub>ハ</sub>何<sub>レ</sub>デ<sub>心</sub>ヲ<sub>ヲ</sub>  
サ<sub>ノ</sub>ウ<sub>グ</sub> テ<sub>ウ</sub>ド<sub>萱</sub>ナ<sub>ド</sub>ヲ<sub>蒞</sub>テ<sub>乱</sub>レ<sub>タ</sub>時<sub>ニ</sub>一<sub>ト</sub>コ<sub>ロ</sub>ヘ<sub>ト</sub>リア<sub>ウ</sub>メ<sub>テ</sub>緒<sub>デ</sub>ユ  
ヒ<sub>ツ</sub>カ<sub>子</sub>ル<sub>ヤ</sub>ウ<sub>ニ</sub>哀<sub>テ</sub>心<sub>ガ</sub>乱<sub>レ</sub>タ<sub>時</sub>ハ<sub>ア</sub>、ハ<sub>レ</sub>ア<sub>ハ</sub>レ<sub>ト</sub>エ<sub>ノ</sub>ガ<sub>束</sub>子<sub>緒</sub>チ<sub>ヤ</sub>

あゝあゝの<sub>づ</sub>と<sub>い</sub>ふ<sub>を</sub>け<sub>ふ</sub>る<sub>を</sub>よ<sub>ハ</sub>知<sub>れ</sub>と<sub>あ</sub>の<sub>ひ</sub> あ<sub>と</sub>

○ナニボシ<sub>テ</sub>ニ<sub>テ</sub>ア<sub>ニ</sub>テ<sub>モ</sub>思<sub>ウ</sub>方<sub>ガ</sub>ウ<sub>ヨ</sub>イ<sub>ニ</sub>ヨ<sub>ツ</sub>テ<sub>ト</sub>ウ<sub>ク</sub>シ<sub>テ</sub>方<sub>ガ</sub>サ<sub>マ</sub>ケ  
タ<sub>ワ</sub>イ<sub>イ</sub>ワ<sub>マ</sub>デ<sub>モ</sub>色<sub>ニ</sub>ハ<sub>ダ</sub>ス<sub>ミ</sub>イト<sub>思</sub>ウ<sub>タ</sub>モノ<sub>ヲ</sub>

おきとく人あつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

○ハをリニキツウシババワしがなスルハ人カシラウカヤタレモ知ル人ハ

アルマイ枕がツカリコソハ夜ツクシテ子ル物ナバモ知ララシモケケレ

あきぢのをわいあつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

○一二バヤウニ思ニテラトエテモ君ハ知ウカイリツイテテ隣ス人ナニニ

人しあぬ思ひやなぞとていぢがそのまぢうけれどもをよけけるま

○人ニシラサ又ハ思ヒトシタコワイ<sup>三</sup>マチガイ所チヤケレ<sup>ナ</sup>ナせニアハルモヤ

ウツナイツブみ秋云ニのウあぞとものどりど<sup>五</sup>歌は打つるどぶ

しとあつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

け小あきとるしとあつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

あつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

あつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

あつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

あつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

○イカホドコフタト云テモコヒヤウタト云テモをレウモカイドウデアハ

ルアデアニニシエシテモくハスブ手モカイルイホドセツク下紐ガトケル

体シキリ人ニ逢タウ思ウ時六下紐ガトケル物チヤトエテヤガワハナニ

ホドアヒタウ思フテ下紐ガトケタト云テモトテモをレハセ子バ何ハセシノ

ナイツチヤニ 打つ下白の尻上白小うを合ころしし

いぢあつしやとまきくしの枕のしとをあつばりあし先

○イヤサコいこ程々チソノヤウニトガステサレナイワニ大キナ舟ノ浪ニユラレ  
ヤウニ物思ヒテウカラクトシテ居ルセウギヤスヤチナねツキニスルハズギヤ  
イセの海小釣きいせのわらわはうきまねやむらうしつとほげあめひつる  
○志ラスルワガバいせの海テ捕師ノ釣ラスルウケギヤカシテちんや フハラクト  
ウカシテシツマイト思フテモドウモシツメラヌ 釣ノウケト云モノハ浪ニユラ  
レテフハラクトウキアルク物チヤガ 心ガテウドソノヤウニサ  
レセの海乃何まのつとねもろちんくくーとのやむい海む  
○一二いせの長イ月日ヲハヤウニツチナイヤトツカリ思フテテいせのアヲウカ  
ム社云あふはつりまはうちをてんくつぎまふいしんくち  
き繩小釣の枝系波おきこほし海の中をくくちをへおきてし

その繩をくくりよせつぎてうは釣をくひくろ魚カをとふ  
こざらりこさへ今オふるも波がけ釣との六世繩の物とい  
てと託してよよりしてハおがまをともりてりばさうちを  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
海川あふみらうも波とづみらむお思ふ所のこくちをなりりらと  
○海川ト云川ノミナカニハトコチヤカトナせ思フターヤラモ川ノミナカニハト  
コテモナイ 抱ラ思フ所ハワガ身チヤワイハテ海ハ身カラ出ルサテ  
る後一わもばさゆもねをあひふるもをてしハあはぎめやハ  
○夕子ガアバ岩へモ松ハエルワイ スヒヤナホ出床ニクイ志チヤト云テモ  
四は分骨ヲ折サシタチラ逢ヘト云ガカイトコゾバアハネト云ハアルイ

けきねく〜に考れやふのこゝに思ひ乃あるせなりりるも  
 ○毎朝夕ツ川ノ考ノ中ニウイテアルイツモ落付又思ヒアルヤウイ  
 こと〜時〜ねらまば〜の思ひみづれて福とのこぞねく  
 ○ロスラレル時ガナケレバ三イロト思ウテ泣テツカリサ居ルワシヤ  
 け〜名むも夕ぐさふあると此ハウ〜をぐ〜を人たまひ〜き  
 ○一 毎ヨウカタニレバカハスぐモサカノ人が急シイ  
 よひ〜小枕さぶさむ〜ことねし〜ふ〜 東うきふ〜りひ  
 ○イワグヤ急シイ人ヲ羨ニスタガアウタガそ東ハドチラ枕ニドウシテ  
 寐<sup>+</sup>夕時デアウタヤラ思ヒシテ見レド見えヌソレデハゴロモ 毎晩く  
 ドウツ又羨ニスヤウト思ド トラ枕ガヨカラウヤラ定メウヤウガナイ

餘材打け其ふ上乃流ぬぐりよく上下の福を味ひて知し  
 急〜きふ急〜ものなるふふやく〜を〜りきる  
 ○今ラけ急シサクルシニカテ死ナル、物ナラ 死ヌルハヤスイテサ  
 アラウー只レルワイ けクルシイメヲセウヨリ 死ニダ方ガハルカニシヤ  
 人の身もね〜物とら〜いば〜り〜ひや〜と  
 ○人ノオト云物モナシモナラハシカラチモチヤニ 急シイ人ニアズニ居テモ  
 ソレガナラハシニウテををリテ居ラル、モノカ又ソレデハコタヘラレイテ  
 死ヌルモノカ <sup>四</sup>ドレヤ逢ハズニ居テタメシテ兄ヤウツ  
<sup>五</sup>死ヌルモノカ  
 急のづき〜ものをも〜も〜〜  
 ○思フ〜居ルハサテも〜苦シイニハヤウニスラヒス心テバカリ思ウト

云々誰ニナリ流リタイ物ギヤガタニ語ラフゾ 誰モ語ラウ人カナイ  
 来ハシヤルモヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウ  
 ○イツク早ウ来世ニナワテシマハヨイニソシタラハ況在目ノニハナシイテ  
 昔ノ子ヂヤト思フワニ 昔ノ子ヂヤト思フワラ己ホドニツラウハ思ハシイワサ  
 流シモヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤル  
 ○アイツモナイ人ヲ思シウ思フトテワシハア 山ノ中ナラコタメノヒツク  
 ホドニサテモく大キナタメ息ヲツイテナゲイタコカナ  
 終ハシカハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウ  
 ○流シテイク水ハ物ノ数ヲカキトメルハチツキニ消テシマハナシセシ  
 ノナイラチノアカヌコヂヤガソヨリマタキツイラチノアカヌコヂヤラ思ウ

テモクシヌ人ヲコチカラバツカリ思フヤワイロシガ思ハサウチヤワイノ  
 人トおもふハハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウ  
 ○人ヲ思シウ思ウ心ハ 我心ヂヤケレド 我心デハナイヤラシテ ニヤルン けチ身ノ  
 マヨウノサシシヌ モシハ心ガキツト 我心ニチガイナクハ 赤刃ノマヨウノガ  
 シシヌト云フハナイハズチヤワサテ アハシト云モノハカハツタモノチヤ  
 おもひやほさうひをるか小形りやまらまらまらまらまらまらまらまら  
 ○人モナイハルカナ玉ヘイタナラ道デモウ人モアルイガ テウドツニナモノ  
 テロシガ思シイ人ヲ思ヒヤルニ心ノイク及モダテキウナルカシラヌ  
 サウカシテ アチコトト思ウテマラヌテモ 思フスニアウ差ハスヌ  
 赤関上りハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウハシヤルヲモウ

受たうらふをえんじと成程まつくもきよひの海むかひは  
 ○せにてハドウゾヌウチニをウトスフテ 此内カラシラ程ニニテ寄シ  
 夕夜ハドチ枕ニドワ寐タナラヌニスラゴゾ ドウ寐タ物デアラウゾト  
 心ガヨウテ ドウモ寐<sup>子ヤウ</sup>枕ガナイ 船材打ケ共ハ流カト解<sup>えん</sup>  
 上<sup>あ</sup>るいふ小舟一乗<sup>う</sup>ヲ乗<sup>ふ</sup>ス<sup>て</sup>り<sup>し</sup>を<sup>し</sup>り<sup>し</sup>と<sup>合</sup>を<sup>て</sup>ん<sup>ぬ</sup>て<sup>し</sup>  
 こい<sup>あ</sup>ひ<sup>し</sup>を<sup>さ</sup>ら<sup>せ</sup>ぬ<sup>し</sup>を<sup>む</sup>ね<sup>に</sup>か<sup>へ</sup>る<sup>も</sup>が<sup>ふ</sup>ま<sup>ふ</sup>ス<sup>て</sup>つ  
 ○コレニア<sup>ア</sup>ニテ死<sup>シ</sup>テシ<sup>ニ</sup>ト云<sup>フ</sup>サウナ ナマナカニ程ハヨヒトヨヌニ  
 スエテ 思<sup>ヒ</sup>ラサセテ ソシテホニニハ子カラアハレイテサ  
 海川<sup>ウチ</sup>ニ流<sup>レ</sup>ル<sup>ル</sup>に<sup>似</sup>て<sup>し</sup>心<sup>を</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>せ<sup>る</sup>も<sup>さ</sup>ら<sup>せ</sup>る<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>せ<sup>る</sup>も<sup>さ</sup>ら<sup>せ</sup>る<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>せ<sup>る</sup>も  
 ○海ガ川ノヤウテ枕ガ流レテ 川舟申テ浮テ寐ルヤウナ カウイフ<sup>ウチ</sup>浮<sup>ル</sup>寐<sup>ル</sup>テ

ハ スル<sup>も</sup>モハツキリトハサスエヌワイノ  
 幸<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>ぬ<sup>が</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>新<sup>し</sup>む<sup>ら</sup>ひ<sup>の</sup>ふ<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>さ<sup>り</sup>と<sup>て</sup>人<sup>を</sup>下<sup>り</sup>そ<sup>の</sup>ぬ<sup>も</sup>の<sup>ゆ</sup>え  
 ○ヌラスバワガ身ハハヤウニヤセテ 新<sup>し</sup>ヤウニナツタワイ サウカト<sup>ミ</sup>テ  
 思<sup>フ</sup>人<sup>ニ</sup>信<sup>ト</sup>モセヌモノ、クセニサ 新<sup>し</sup>ナラスニソヒワナモノヤニ  
 船<sup>が</sup>マ<sup>ち</sup>小<sup>舟</sup>の<sup>ぬ</sup>ら<sup>む</sup>の<sup>船</sup>も<sup>か</sup>く<sup>海</sup>ノ<sup>川</sup>ノ<sup>ふ</sup>ら<sup>む</sup>に<sup>似</sup>て<sup>し</sup>の<sup>ゆ</sup>え  
 ○移<sup>リ</sup>舟<sup>カ</sup>カ<sup>リ</sup>火<sup>コ</sup>ヲ<sup>川</sup>ニ<sup>浮</sup>テ<sup>モ</sup>元<sup>物</sup>ナ<sup>レ</sup>カ<sup>リ</sup>火<sup>テ</sup>モ<sup>ナ</sup>イ<sup>ワ</sup>ガ<sup>カ</sup>ノ  
 ナセニアハヤウニ海ノ川ニウイテ 胸ニ思ヒノ火ガモエルヤラ  
 む<sup>ら</sup>ひ<sup>の</sup>船<sup>の</sup>新<sup>し</sup>む<sup>ら</sup>ひ<sup>の</sup>ふ<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>さ<sup>り</sup>と<sup>て</sup>人<sup>を</sup>下<sup>り</sup>そ<sup>の</sup>ぬ<sup>も</sup>の<sup>ゆ</sup>え  
 ○川ヲ流レテクダレ移<sup>リ</sup>舟ノカ<sup>リ</sup>火ノ移<sup>リ</sup>タ<sup>ル</sup>水<sup>イ</sup>テ<sup>モ</sup>元<sup>ガ</sup>ワ<sup>ニ</sup>  
 モテウドソニモノテ 急<sup>ニ</sup>ヤツ<sup>テ</sup>新<sup>し</sup>ヤウニナツタ身ノツライ難<sup>キ</sup>ナ<sup>コ</sup>トハ

長イ月日ヲ心ノ内ズツカリ忍フテ子ノモユルギヤワイ

早記漸ふみくぬおひさびさお神の海乃門ふうききくものそ

○ミルメト云モノハ海中ハエル物ギヤガ  
ソガ着川ノ子イ漸ハエテソダツ  
ナラワガ神ノ海ノ川ノウエウモノヲ  
ナゼニナレヤワガ海ハ早イ漸ノ  
ヤウニ流レルソシテ云シイ人ニモア  
イラミルメト云ニヨツテサ

おきくゆもよぬぬもは海乃ふみだれり  
のそをばアこむ

○ワシガ忍ハ沖ノ方ヘモ致タヘモヨラスニ  
信ノ上テミダレテアル藤ノ  
ヤウニドチラノモツカズニ心ガ乱レテ  
イツミデモイヤウニ云シイノト  
忍フテバツカリ月日ヲタテラアラウカ

わがどのささくぬぬもは海乃ふみだれり  
のそをばアこむ

○上 人ヲ今世ヤウニ云シウ忍ワウトハ  
忍ヒモヨラスノヨ

人さしぬぬおひさびさお神の海乃門ふうききくものそ

○常住人ニラサヌ忍ヒラスルワガ身ハ  
外ニナイ 彼海ノ居士ノ山ガサ  
ワシガ忍ギヤワイナセト云ス  
居士ノ山モ火ハモエズ  
常住煙ガ立テモエルサテ  
とよものゝ忍もゆぬぬもは海乃ふみだれり  
のそをばアこむ

○イカウ源イオク山テハ鳥ノ声モセヌ  
モノギヤガワノクラ井ノ奥山ホド  
源イハワシガ心ヲ忍フ人  
サウトハシラスサウナガ  
ドウゾ知テラカシ

あかぬのゆいつけもももこくぐくく  
人ヤ忍ヒキ神のそをばアこむ

○相坂ニハナシテアル  
アノホチヲツク夕鷄モ人ガ忍シイヤラ  
オレト同シ  
ヤウニ声ヲアゲテモスラ鳴ク  
おけゆいつけもももこくぐく

名塚の言よ流りし心よあいにをりし心ひりてをれ  
○上 イハズニ居ルテコリアレ心ニタイテイ思フーテムナイ  
う記事けし人もあはれや流きんば志ぬ人乃たなき  
○ワシガ流イ心底ハウニ六浮草ノシゲツテスエ又濁ギヤカニテ  
流イ心底ヲ人ガ知テクシヌフカイコガスエヌサウチ  
うらむびくよづいあふ心むのあふぬ心ハ河じとそ思ふ  
○サシツツテセニカタナサニ大キナ声ヲミテヨバツタナラ其声ニハヨモヤコタノ  
ヒカヌ山ハアルイトサロフ大キナ声ヲスレバ必コタマノヒクヒリテワ  
ガコレホトニ流ワラフナバアキカラモスコハ何トゾ思テクレソチモノヂヤ  
ころがくもあつとがめこひもくろし流物人ふあしをむ

○夕ガヒニ人ノ心ガトリカヘラレル物ニシタイモノキヤソシタコチノ心トアチノ  
心ト入カテ片思ヒハクルイ物キヤトエラアノ人ニ思ヒテサウニ  
しとやしてこしきびくろし心むけけけふふさむさびてむ  
○今イトホリニハダツテヨフテ思シウ思フテ居ルグシイニ両方紐ヲ  
一野へムスビ合スヤウニドレヤコレカス一野ニ居ルヤウニセウグ  
はドムあといくふ或人エカシぬふ同心結しりかこひふよ  
まこしといひり又今思ふふさうりこころし心流きよま  
まふあさきあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみあゆみ  
○春ニテバ氷シタテスルヤウニ君ガ心トタウクコナウ我ニウチトケカシ  
らまよるるあゆみのまをりし心むらじし心あふさすあゆみえんを流き





ナレノタメニ此ヤウニ 三 アラスザズニツカリ思フテ居ヤウダ

あつておれぬよ、終なきかてふくでけつゝおれぬの志なきこゝろか

○ 涙者ノクニルカトスレバエタマラスニクダケテ消ルヤウニ オレハガクダケテ

ハゴロハサテク、お思ヒノレゲイノカナ

おく心乃もがの根志のぎふゝおれぬまぬとらふいゝ志の志なきこ

○ けヤウニ思ヒガレゲウテム ドウモタマラニ 上 ワニモウキエルヌルト云

テヤラウカイ

古今和歌集卷第十一巻後

恋前二

歌しおど

小野小町

おもひつゝぬもびやんのそつゝもまゝとるをばあぢいしほ

○ 思ヒく、寐ルユエニヤラ 恋シイ人がまニエタ ときニマダヤト知ッ

タナラ ササスニオカウデアツクモノラ ヲシイヲシテサマシテノケタ

うゝゆゑの恋しき人をとらてゝゝとてまてふおれぬとめてき

○ イツソヤウタ、子シタ時ニ恋シイ人ヲまニエテカラ 後ト云モノハヨイお

キヤト思ヒツメテソカラ又スヤウ又スヤウト思ウテ後ヲねニシテ居ル

しやせぬとて思しきおれぬのよるおれぬをかしゝとてきぬ







ちぬく命のさしとやとるくらふふはばいりあひいともむ

○ドウテエテ死ヌルは命ガ 若シヨツト生ノビルトモアルカ物ハタヌキヤニ

ドウゾ 短イモノはノアヒダホドナリル 千ヨツトせウト云テクレカシ

コビぬまひひしてさしせし思ひもまをりふねぞ人どの先ぬる

○トツトモウエニキハテタレバドウツテムリはウラ忘レト思ヘル

後ニ逢ウトルレガアルヨツテ 又ヒヨツトアルレトモアラウカトツレガれニ思

ハレテソシテアルモセキバア、多ト云物ハサ人ニおモシウ思ハセテオイテ

何シノヤクニタヌモノギヤ 打せふ人ぬのうぬ人どのまれとあは

たぐり人どのあせしとらふるも先ハ即<sup>4</sup>ませのつまりくさへ

ふみぢくちん

コらぬくもゆてもさめをもき<sup>1</sup>たうんもびりちやらばりせ

○ナラヌコラマリニヤウニア サテく子テモオキテモエシイコカナ コレテ

ハドウモタラヌガ け心ヲド子ヘヤツタラけゑラウスレテアラウゾ

ゑ〜<sup>1</sup>ゆふもびてゑるゑまごひるびるゑまかぬあやゆゑむ

○けヤウニエシイノニトツト新ヌシハテ、モシヨツト魂ガ<sup>2</sup>モウテドコゾヘ

イテニウタナラバ アトハ身ハナシヌケガラニルチヤガソニテ思フ人ニアヒ

モセヌナシエシク<sup>3</sup>セニ ゑデ死<sup>4</sup>ナト云名ガサルテアラウカ

己の心ハ魂のさりてむまもかしてぬるさあはなすあきて  
むあ〜もゑあぐ〜ふ〜い〜ふびひ〜け〜もぬ。

紀、費〜



神ふねきそしゆら<sup>る</sup>やーうごもきぬふねにー神ととびこし

○泣テイヤウニヒツタリトヌレタ袖ヤケドモシカ問タラ春あまタギヤトイハウ

やーゆきこるね

おがどくおやうねーき郭ふねごととなくよらなうーき

○郭公モオガヤウニ物がカナイカイ時ホナニ夜ハヒタモノアヤウテゼナクヤラ

ほーゆね

ちつきこつらとあうみほとぎとねらみやねるきもさうね

○上泣テツカリ居テウかくトシテ心モツゴナミラマアスルーカナ

元何ゆみつひ

秋あけしゆらあきんーいあらおれそとあまらうーあふ

○一ミラスルデハル所モナイ心テハトト<sup>タチキ</sup>起居スルモフゴロテウかくトシオホエヌ

清原ぬうやぶ

虫れがしー多ふしーハあうねども海のしーそりふねがうは

○人マハラシグユエニ虫ノヤウニ声ヲタテハナカヌケレデナイヨウデハ

海ヲナガシテバツカリヤラリヌスワイノ

是欠みこねあの方合れや よみんーらび

秋あまバふとらひひやで写麻小それおとーめやひとらとめらおハ

○ヒトリ子タ奴オレガ泣クハ秋デイウナラ山子ウヘヒクホドニナク麻ニモオ

トラウカオレハ麻ヨリナホキウウ泣ク 秋あまバふハ秋のおり

てたしーくしーいふとらひひやで写麻小それおとーめやひとらとめらおハ













○ワシガ恋ハテウドも<sup>ハ</sup>遊川ノウハバ水ノナイヤウニエテ 下ノ方ヲ  
水ガトホツテ流レルヤウチモノデ 何ニタシテイハヌト云バカリヂヤゾイ  
心ハシヤウチウ思フ人ノ面へをウテ恋シイモノヲ

みほ子

美成のこ思ひ移よ福一多きれ<sup>ハ</sup>ごんく<sup>ハ</sup>つる<sup>ハ</sup>わづら<sup>ハ</sup>

○オマヘノ子バツカリラ思ウテ<sup>子</sup>寐テ足タ後ナレバ<sup>ハ</sup>をウトス<sup>ハ</sup>タノモ  
オマヘノナサケテハナイ ワシガ心カラスメノヂヤワイ

こごみ子

あめちあもやさりてをく<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>え<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>む<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>  
○イノチホドラレイ物ハナイギヤガソヨリマダ惜ウ思ハレルモノハ 恋シイ人ニ

逢ウトスル後ノマダトクトス<sup>ハ</sup>テニ<sup>ハ</sup>ヌウチニ<sup>ハ</sup>早ウサメルノヂヤワイ

を<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ほ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>き

梓ら<sup>ハ</sup>望<sup>ハ</sup>糸<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>本<sup>ハ</sup>末<sup>ハ</sup>マ<sup>ハ</sup>ぐ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>恋<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>ほ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>

○直ヨリモ 上 恋ルガサカクベウニ恋シウ思フ心ハニサルワイ

こつ<sup>ハ</sup>孫

こがこひもゆくへも<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>ほ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ど

○ワシカ恋ハ タトヘテイハバ<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ライクニ<sup>ハ</sup>ドコイク<sup>ハ</sup>ヤラサキモ<sup>ハ</sup>ヒズドコニ<sup>ハ</sup>デ

ト云限リモナイヤウチモノテ ドウナル<sup>ハ</sup>コヤラ子カラサキノ<sup>ハ</sup>ヒヌ<sup>ハ</sup>コ<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>デ

タバをウノライキ上リト思ウバカリヂヤ

それのこごみ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>恋<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ば<sup>ハ</sup>で<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>平<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>ど

○世中ニオレホドサ カナシイ物ハナイワイノ 是ノ年ニタタ一  
ツ、ナラデバアハレ子バカナシヤウナ物ナレド ヲモ年ニタツハチガヒナニ  
ウーガアツテ 一年モアズニタ年ハナケバ ワシ秘ニ悲イニテハナイワサテ

ふのやぬ

今ワヤ今ゴロハ 茲死ニテシウデアラウニ イツクヤ色ハウト アチカラ約本シ

テオイタガアルヲ 秘ニシテサワバツカリガ令デ下カウ生テ居ルワイノ

みはの

たのせつく 何とぞ年ふつとふらぬ 秘を人ハチハ 秘を

○イク夜かく 意ハト約本ニテ秘ニ并セテオイテハアズニ年カ多ク タマシ

コトニコリスニヤハリ 秘ニ思フロシカ心底ノ深イハラ 推量ニテカシ

やまのり

いのちやハ形少ぞハ 秘はあど物を所ホ 秘をを 秘ハクホ

○今ガサ何ニギヤツイ オノオウノヤウナアタナ物ヂヤモノ 秘フニ

カヘテナラ 秘令ニウノハラシイコトハナイ

古今如歌集卷第十三巻

恋歌三

やよひのついでより 秘のび小人のついで

後小海乃と不海りきふよみくはるやとま

左京業平御后

かきもせど祢もせじとて成取とては其の物とてねがふらじつ

○オキルデモナシルデモナニウツラくとシテ夜ヲアカシテハ又昼ニナレバ

ナリ空アヤウニ長あまの物テ一日ナガテニキニ思フテクラスヤ

なりとては御后のあふはるる女のりとてよとて

つうーとま海 どーち御后

はるごのねがふよまらる海川神のこめれとあふよーとほし

○ウチツグイテ日ヨリハワルシ日ハ長シヒニテサビシイツケテハイヨクシキデ

ナガメラシテ海川ノ水ガミシテ袖ガヌレルハツカリテツシテ川ノ水ガミセバ

ワタラレヌヤウニ逢ハレサウナモヨウモナイ

かの女ふらりてかよよあはれとて御后の御后

後こしと神をむづめ海海あまらるるあがとてきくばあゆのまむ

○袖ガヌレルトオツシヤルガツレヤオマノ海川ガ後サニササウデアラウ

神バツカリヌレルグラ井ノ後イデーハ彩ミニナリマセヌ身ニテガ流レルト

オツシヤルクラ井ノ海川ノ原サナラソレデハ彩ミニ後ニセウ

餘材あすの夕の流るる。あまらるるあがとてはだご神のこ

むづふむとて海をこし成りてのこもあまらるるあまらるる

影ーとらむど よみくきとむん

よるべると成りてとまきくへとつとるるとあが彩と形りあき



○近ウヨルテズナガナサニ身ヨウカウニテ遠ウヘダテ居レ 心ハジャウヂ  
 ウオマヘノワバラハナセヌ 新ノヤウニトウカラハオマヘニウフテ居ル  
 餅材小太ハヨリとつよきとよきといつりといつりいむぐとん  
 さつとてしるし引とて方々のまればハ可のまきとんぬ徳ねん  
 づづにゆきてハ本ぬる物ゆふんまきくけいさふいざりつれつ  
 ○行テハムダニカヘツテクルモノクセニ 巻タイト思ウ心ニサスヒテハ又ニテモ  
 イキ又ニテモイキスルワイ ドウユテモトカク巻ダサニサ  
 あとぬ虫のふるふきしほりまらばぬきとものふけぬべき物を  
 ○雪ノウモルヤウニ巻ヌ夜ガイクヨモくツモツタナラを巻ノ消ルヤウニ  
 ワニテガ共ニ消ルデアラウト思ハレルモノヲ サテモアハレヌトカナ

けいあはあるくのまきく様本人まらげあかり

かるまひの巻居

秋のゆふ小篠ふー何きの神もいへでにしとむむぢきん  
 ○秋ノ野テ毎ノ中ヲ分テトホツテキタ新ノ袖ハキツウあデヌル物チヤガ  
 フレヨリモ思フスアイトエアスニ戻テキタ夜ガサナホキツウ後デ袖ガヌル  
 小也小所  
 みる免るきそ身とくらとあし孫バヤかま形で何月れあーとあくる  
 ○海松メヌイ浦チヤトエーラシラズニ 海士ガミルヲ 蒨ウト思フテヒタモノ  
 来ルヤウニ アノ人ハワシガ身ヲドウモアハレヌオチヤトハ 知ラシヤラヌカ  
 ニテ 一板モカサズニ 足ノダリニ 毎朝く巻ウト思フテスエル トテモ

アハセヌノニサ 御二宮様まむうより伝はるる人等し是  
ハ幸かして形をどしむるにさむらひのつとむるにたてて河を下  
上ふおろしとてたづね格く御身をみるの形を浦とて糸  
なむとつとみしみるの形を浦とて意かききとつとみし浦ハ  
とてみる御身よめ河のこしされば御身を恨むもけしとむ  
つひうきたるふあはれはさて悔まじが御身とつとみしとよめ  
多きハけしは御身よめ河のこしされば御身を恨むもけしとむ

源宗千太郎

あつどしとて御身のけしむるの形をどしむるにたてて河を下

○今ねハゼヒトモドウアツテモト思フタニ又トウぐエ逢ハタニアカスチヤサウチ

今夜アハイデハモウをウベキ時ぞハナイニハトホリテエアズニ夜ガア  
ケタナラ 春ノは月ノ長イニニシキニ思ヒクラニテ<sup>四</sup>イツマデモツライヤク  
ト思フテ一生ヲタテルデカナアラウ

みよののちみね

みよののちみね 御身のけしむるの形をどしむるにたてて河を下

○ニハカタ女ト曉ニ別レタ時ニるの月ヲ見タレバニキリニアレラ催テ  
アニア月ハ夜ノアケルノモニシラヌカホデ アノヤウニガツトユルリトシテアルニ  
オハ夜ガアケレバカハラ子バナラヌトテ 残り多イトコロラ別レルカヤ  
ト 身ニシシト思ハレタガ 時カラニテヨニ曉ホドウィツライモハ  
ナイヤウニ思フ 御材上白と河をどしとてつとみしとせむはちの

へりしりふぬつり。むぐしん。破治のぬく。をてあねる。之。ゆきと  
くふ入る。い。や。と。浩。き。し。ち。ほ。も。げ。き。ふ。より。て。浩。れ。り。

あつし。く。は。ぬ。か。し。

あつし。の。お。き。さ。あ。し。う。る。浪。あ。も。ば。う。み。て。の。も。ぞ。ま。う。り。り。

○浦ノ破バタヘヨツテクル浪ノチキニ引テ沖ノ方ヘカヘルヤウニをさるモナイ  
人ノ而ヘイクロニシバイツデモソノ人ヲ恨ニテバツカリサカヘルロイ

よみ人あしど

かひてよと風ふき浪はゆきやあつし。おきふま。て。は。り。む

○マダをタノモナイサキカラ早ウ名ノ立ハニテ元ヤウナラ 浪ハ風ガ吹ニ  
ヨソテタワモノチヤニマダ風ノフカヌサキニマカカラナギニ浪ノタツ

ヤウナ物カシラヌ ナゼニハヤウニマダ早ウカラ名ノタツトヤラ

あつし。

みちれくおしり。し。り。あ。り。名。海。門。の。記。名。と。り。て。は。り。か。り

○上 ナイコラ云タテ、名ヲタテラレテハメイワクナコトチヤロイ

み。の。あ。つ。し。

何やあつし。ま。だ。記。さ。き。の。立。田。何。し。て。や。ま。む。あ。り。あ。つ。し。

○マダ早ウカラハヤウニ名ノタツハワケノタヌトチヤトテモカウ名ガ  
立タカラハドウシテナリト 逢ハズニオカウモノデハナイ

あつし。

人といふ。あ。つ。し。の。を。し。た。れ。ば。昔。も。今。も。あ。つ。し。と。い。ふ。

○人ハドウアルカロシハナイコラズヒタテラレル名ガ惜ケレバマヘ方モ今モソシナコハシリマセヌトズ

よみ人あし

あつとぬふもなをさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむ  
 ○二ハカタモノイコラタテラヒテアイワクニタコガアツタガソレヨリモセズニ又ドウ  
 ヤラ名ヲテラシヤウニ思ハレル<sup>五</sup>世中ノオラヒテ<sup>四</sup>ニクウナイ人ガアルデサ  
 ちむうけ五條さうらふ人とちむうけさうらふ人とおきさうらふ人とおきさうらふ人  
 りる志のびあふふあふむれをかどよりいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ  
 かきかえらむとよりかきかえらむとよりかきかえらむとよりかきかえらむとよりかきかえらむ  
 わさどきさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむ

まのらうきれぬわきりれどえらをぞのこかりてよも  
 てやうさうらむ  
 なるまひさうらむ  
 人さうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむ

○人ニシラサヌカヒガヒミチノ冥取ノ番ハドウツ毎夜ヨロクニチヨツトナリト子ムツテクシカニソシタラソノ月ニハイラニ

あつとぬふもなをさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむ

あつとぬふもなをさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむさうらむ  
 ○ズイブンカクニ忍ブケレバキツウ迄ニイ時ニハエコラズニ月ガ出テ  
 ヨウズエルノニヒヤウニ知テサクルワイ又ニ此の白ハさうらむ  
 の序のそとらむさうらむ

よみくしう文

あひくしてふふあふひぞ何のゆつをきふおうぎも何うむ

○ハラハイ急ぐテタマクコヨヒ始メテサ巻ヲタニトウゾ今秋ハ巻多ハ  
マアナイテクし子バヨイガ 鳥ガナケバオキテ列レ子バナラヌニ

をのこすら

秋の巻と名のしりらるるをきとぞとぞとしくぬる物と

○秋ノ夜ヲ長イ物ヲヤト云モ名ガカリガワイタマク急ニニアウ夜トイハ  
コヒガヨトモナニツイテウ明タモラ ナニ秋ノ夜ガ長カラウツ

元河内みづみ

きくと思ひぞとぬきより何ぞう此秋乃巻なれを

秋ノ夜ハツタイハ長イモノヲヤケレ<sup>四</sup> アウニヨウテ秋ノ夜デモミジカウ  
オボヘル物ヲヤト昔カラモ云トホリテ 此ハ秋デ巻ノ長イ時多ナレ<sup>三</sup>バ  
スイタニ巻タ夜ヲヤヨウテ 長イ<sup>レ</sup>サドウモ思ヒキハメラレ<sup>五</sup>ヌ

よみぢしうらむ

あひく先れやがしくと何けゆきおのがきぬぐおうぞかきき

○目ガサノテ 夜ガクワラリツト<sup>四</sup>テクシバ<sup>四</sup> ツニナウテ子テ居タニ入ノキルモ  
ノガ別クニナウテワカレガカナシイ お守<sup>レ</sup>やがしくの後<sup>三</sup>アウシ  
録材<sup>レ</sup>きぬぐの後<sup>三</sup>いきりたぐり<sup>レ</sup>面<sup>レ</sup>とりきり<sup>レ</sup>ときぬぐ<sup>レ</sup>とハ  
いも<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>秋<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>結<sup>レ</sup>白<sup>レ</sup>歌<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ど<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>ぞ<sup>レ</sup>よ  
ろ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ね<sup>レ</sup>ど<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>ぞ<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>幼<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>虫<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>後

ふくしのこころをいささかきこむるのこころをいささかきこむるのこころを

春原園遊記

あきぬとて今人の心つくつくにさどつひきくぬ思ひをさしむ

○夜がアケタト云テ サアモウ別<sup>いまい</sup>レルヤト思フ心カウカラニテ ナゼ

ニハヤウニイフニハレヌ思ヒガウウーヂヤヤラ

寛政のつぎのまはる合乃ち ぬきしり新伝

つれぬとてかへさよふに記して海もぬりさやぢつ

○ハヤウニ雨ツヨウフルニ 夜が明タト云テ別<sup>いまい</sup>レルヤト思フ心カウカラニテ ナゼ

物ヲコキオスヤウニヒ多くト落テイユクヒツタリト云テ扱チ悲イ難クナリ

ぬきしり新伝

寛政

あつたれとて今人の心つくつくにさどつひきくぬ思ひをさしむ

○目がサメテ別<sup>いまい</sup>レルガナゴリヲサニ 鶏ヨリサキヘワシガサツツ泣キハジメタ

よみくちん

郭ゆめうつろいささかのあのおきてみまわつたきくぬ

○三 オキテ別<sup>いまい</sup>レタ曉ニ今 鳴タ 郭公ノ声ハ 夕テモ後ヤカウツ、チヤ

カオボエヌ心ガ乱テアルニヨツテサ ちやまわーい、まはるこわーい。

ふくしのこころをいささかきこむるのこころをいささかきこむるのこころを

○一 夜が明テカラカヘツタナラ 人が死テ君ガ名ガタウト思フテ一ダ

夜ノ休イウキニおレテキタガ ツレモモシ人が死ハセナシダカシラヌ

大に千里

はるかにいもおきさむくもさうざりつ思ひ物ぞききえてうねりき  
○ケサハア 別<sup>オキ</sup>三心ガ乱レテ ドウ<sup>オキ</sup>テ 紀<sup>オキ</sup>テキタヤラ子カラオボエナニガカモウ  
ヲ思ヒタテ今サキエルヤウニカサシイ 折<sup>オキ</sup>日<sup>オキ</sup>親<sup>オキ</sup>の伝<sup>オキ</sup>あきどさ<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>  
人ふおきておふよみて迷<sup>オキ</sup>るならと<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>お<sup>オキ</sup>た

秘<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>か<sup>オキ</sup>ら<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>ど<sup>オキ</sup>ろ<sup>オキ</sup>め<sup>オキ</sup>バ<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>う<sup>オキ</sup>ね<sup>オキ</sup>お<sup>オキ</sup>も<sup>オキ</sup>な<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>備<sup>オキ</sup>さ<sup>オキ</sup>か<sup>オキ</sup>な

○ユフベ<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>床<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ノ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>ド<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>後<sup>オキ</sup>ノ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>リ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>サ<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>セ<sup>オキ</sup>メ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>ホ  
ラ<sup>オキ</sup>後<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>ナ<sup>オキ</sup>リ<sup>オキ</sup>氏<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>チ<sup>オキ</sup>ド<sup>オキ</sup>ス<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>ト<sup>オキ</sup>存<sup>オキ</sup>ジ<sup>オキ</sup>テ 眠<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ミ<sup>オキ</sup>ド<sup>オキ</sup>子<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>レ<sup>オキ</sup>モ<sup>オキ</sup>波<sup>オキ</sup>サ<sup>オキ</sup>バ 後<sup>オキ</sup>ニ  
サ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>エ<sup>オキ</sup>ス<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>デ サ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>モ<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>ヨ<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>サ<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>コ<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>ナ<sup>オキ</sup>リ<sup>オキ</sup>ス<sup>オキ</sup>ル<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>ナ

業<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>お<sup>オキ</sup>給<sup>オキ</sup>は<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>せ<sup>オキ</sup>れ<sup>オキ</sup>ぬ<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>ゆ<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>る<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>る<sup>オキ</sup>時<sup>オキ</sup>分<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>う<sup>オキ</sup>り  
は<sup>オキ</sup>る<sup>オキ</sup>人<sup>オキ</sup>ふ<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>み<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>ふ<sup>オキ</sup>あ<sup>オキ</sup>ひ<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>み<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>け<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>ふ<sup>オキ</sup>人<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>ふ<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>ぶ

な<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>て<sup>オキ</sup>思<sup>オキ</sup>ひ<sup>オキ</sup>を<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>き<sup>オキ</sup>ら<sup>オキ</sup>け<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>ど<sup>オキ</sup>に<sup>オキ</sup>女<sup>オキ</sup>乃<sup>オキ</sup>も<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>より<sup>オキ</sup>お<sup>オキ</sup>こ<sup>オキ</sup>せ  
ふ<sup>オキ</sup>り<sup>オキ</sup>き<sup>オキ</sup>ら

夫<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>こ<sup>オキ</sup>一<sup>オキ</sup>夜<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>は<sup>オキ</sup>も<sup>オキ</sup>も<sup>オキ</sup>わ<sup>オキ</sup>ら<sup>オキ</sup>む<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>う<sup>オキ</sup>つ<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>秘<sup>オキ</sup>で<sup>オキ</sup>う<sup>オキ</sup>さ<sup>オキ</sup>ら<sup>オキ</sup>て<sup>オキ</sup>の

○ユフベ<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>オ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>ガ<sup>オキ</sup>ワ<sup>オキ</sup>ガ<sup>オキ</sup>方<sup>オキ</sup>へ<sup>オキ</sup>心<sup>オキ</sup>出<sup>オキ</sup>ナ<sup>オキ</sup>サ<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>ワ<sup>オキ</sup>ガ<sup>オキ</sup>オ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>方<sup>オキ</sup>へ<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>来<sup>オキ</sup>  
ワ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ラ 又<sup>オキ</sup>後<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>ホ<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>ノ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>カ 眠<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>内<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>目<sup>オキ</sup>ノ  
ま<sup>オキ</sup>て<sup>オキ</sup>居<sup>オキ</sup>レ<sup>オキ</sup>内<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ド<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>ワ<sup>オキ</sup>キ<sup>オキ</sup>子<sup>オキ</sup>カ<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>エ<sup>オキ</sup>セ<sup>オキ</sup>又<sup>オキ</sup>オ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>ド<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>ヂ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>ナ

の<sup>オキ</sup>へ<sup>オキ</sup>し  
な<sup>オキ</sup>る<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>あ<sup>オキ</sup>給<sup>オキ</sup>は

か<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>く<sup>オキ</sup>し<sup>オキ</sup>い<sup>オキ</sup>ん<sup>オキ</sup>乃<sup>オキ</sup>や<sup>オキ</sup>ふ<sup>オキ</sup>よ<sup>オキ</sup>ど<sup>オキ</sup>ひ<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>思<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>う<sup>オキ</sup>つ<sup>オキ</sup>と<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>世<sup>オキ</sup>人<sup>オキ</sup>さ<sup>オキ</sup>ど<sup>オキ</sup>給<sup>オキ</sup>え<sup>オキ</sup>よ  
○サイ<sup>オキ</sup>ナ<sup>オキ</sup>コ<sup>オキ</sup>ブ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>の<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>イ<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>ソ<sup>オキ</sup>心<sup>オキ</sup>ガ<sup>オキ</sup>ク<sup>オキ</sup>ラ<sup>オキ</sup>ガ<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>夜<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>及<sup>オキ</sup>ライ<sup>オキ</sup>ク<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>デ ト<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ウ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ヤ<sup>オキ</sup>ラ  
ワ<sup>オキ</sup>シ<sup>オキ</sup>モ<sup>オキ</sup>サ<sup>オキ</sup>一<sup>オキ</sup>向<sup>オキ</sup>ま<sup>オキ</sup>エ<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>セ<sup>オキ</sup>又<sup>オキ</sup>後<sup>オキ</sup>デ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ホ<sup>オキ</sup>ニ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ア<sup>オキ</sup>ツ<sup>オキ</sup>タ<sup>オキ</sup>ネ<sup>オキ</sup>キ<sup>オキ</sup>ハ<sup>オキ</sup>世<sup>オキ</sup>乃<sup>オキ</sup>人<sup>オキ</sup>定<sup>オキ</sup>メ<sup>オキ</sup>テ<sup>オキ</sup>ク<sup>オキ</sup>レ<sup>オキ</sup>イ

野々々々々々

よみくーらび

うむむのやまはうつらけごとくはるるもふくもまさらざりしと

○ 雲イノニヨツトをタノハホニノうデモタシカナ後ニ何ホドモサ  
ツタコトハナイワイ 後ニタト同シクラ井ノコテアツタ

さよぬまて河戸のと後る月影ふあうむもあはをえつるかた

○ 上 君ニをテサテモくニアノノコリオホカツタノカナ

ニの夕のよひの、ほよそ上白ハあつどの序あべし万葉ふゆまし、

あが名もどが名もどでじぬおもあふみゆもつらむひまもど

○ ドウツオハノ名モワガ名モ立ヤウセワ 三ワニ逢タトオモイハヤルナワモオ  
二ニ逢タトモイホドニあひきハ逢はのあふ細行よひもせうら

名あ門せびうもれ本何しつ色いふふむむとらけひんそをむむ

○ 二 世るへしレテ名ガツツタラ ドウセウト思フテをツメタノヤラ

よや川あはれむをやくととばのきりいこてどとどおとよ

○ 吉野川水早イヤウ忘ニヤセテウ思フ庄波ヤウニ音ニタテイトサワヤ思フ

忘くくあを思へむさねの根をりの衣つらふつらゆえ

○ 忘シウ思ウナラ心内デ思フテ居名カヨ 三四色ニダステイヅカチラズく

をのをもあうせ

花もくねあふくくしひばめを情み下ゆむものむとがきほ

○ アラハシテ思フタナラ名ガタッデアラウトソレガヲサニ心 四内デバツカリ思フテ

ムヤクシヤトシテサテモく若シイヌラズルギヤ 打ヤソ下ゆ細の境 サトヒ後





とハツル。こむらゆむのまじ。此例つひふあやし

夏後ハあゝもやとせび無へどころつふ一めん一どハあゝぞ

○夏ニハ足モヤスメズニ毎夜セイタシテ色ウテタビく色トスルケレモ  
イツヤチヨツトホニニ色タヤウニハナイ アニ夏ハヤクニタヌモノチヤ

よみ人あゝぞ

思へども人先<sup>ほ</sup>ほれとくりせバ川くそあがくそを海へ流

○夏ニウ思フ人ヲステハア、アレトモヒガラモ人メラツム心ガイツハイヂヤニヨ  
ツテ<sup>五</sup>ドウモヨウサアヌワイ 何のウかきハとらとを川よひせり。

流つ流のふれを成りかゝかち人ちほくそれを流さむじらそ

○早イ川原ノヤウニナルセモナウ思ウ心ヂヤモノヲドウ云テデア 堤デ川ノ

水ヲセキトスルヤウニ人目ヲツニデハヤウニコラへ忍ニデクルケイメラスルヤラ

寛<sup>ホ</sup>ホはあきさの五れあ合のち まきれととのつと

くまぬわの色ハハいでドかきせぬの志に色ひてこひハあぬとも

○三<sup>四</sup>げヤウニ心内デバツカリ思フテ居テタトヒ色死スルト云テモ一<sup>三</sup>色ニダスニ  
竹材ヲ其下ヲ色いてをまきひのふといつハあゝぞ

とハド沼水の海の約をいづのこけてあれまき下にはあゝぞ

顔ろ一丈

みはる

あゝ他りもむむやととのつとよくそふをよと人ふあまな

○上<sup>三</sup>こッ<sup>三</sup>家ヘワシガをウトニテ人ニシラスデハナイゾ  
竹材つともあくのほろし。上向ハ序うて、何のウれそとハ序よ

アハ底とつぎきくくくくつぎもななくハ水のいと無きあふ上ハハさも  
ス々ぬよーくけ何ハ序のうけずのこせしあはさふあつーいん  
けのたふまおくゆわれ乃ぬををまみあまははくとも色ふいでめや  
○笹ノ葉へフツタおが夜ノきをサニシツクヤウニワガ恋心モシツクヤウニハ  
思ウトエテモ色ニダサウカイ ドノヤウニアウテモ色ニダスコーデハナイ

よみ人ーらよど

ふーぬのまねの山はきふぶぬに人のあぶくこがらひ先くを  
○ナニボ恋シウ思ウトテモ 一二 ちろニモ人ノシルヤウナフリヲセウカニア  
ツノキツカヒハナイゾイナ  
けまけま人あまをけう糸へのくあんやん

きよのりけふうやぶ

みろーぬの流れむらまはをがここみるめの浦ぶらるをーとすそ  
○一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

平貞文

白川のさつびともいもど 庭清くぬが終てよにすむむとど  
○人が問ダラ 一 シラストモイハウナレドサウハニマイ オレヤ 志実ナ心  
底チヤカラハ イツミデモ末長ウツレツハウト思フ料算ナレバサ スレヤ  
ソノヤウニナニモ人ニカクスコーデハナイワサテ

ととののり

ちろふのこちやせぶらー ちろふのこちやせぶらー ちろふのこちやせぶらー

○ナイセウデバツカリ思フテ居バキウウジウナイニモウワモイウソウチダシテ  
 三  
 えてミダレウソウタラ人自ニカ、ルデアラウガ必ダレモトガテトサルナヤ  
 ぬをををびりてあーのふらちびるの色小知ぬべし  
 ○ワガ此思ヒラ今といアトウヤラカヤラ恐ヒ隠テ居ルガコレカラモウトウモ  
 コタヘラヌヤウニツタナラバ三四 色ニテ、人自ニモカルヤウニテアラウト思ハレ

とく人みらじ

大くこいお名もみるこい出るむいぬみべふみるめをくほ  
 ○碓<sup>イ</sup>タハ海<sup>ル</sup>松<sup>ル</sup>メガスクナサニ舟ヲ湊カラ沖ヘスウトコキ出シテ存分ニルメ  
 フ蒞ルヤウニワシガ中モ大カイナラモウ名ノ立ラカハズニ世<sup>ニ</sup>ス  
 ヘツトウチ出シテニハウ隠シ恐ブ中ハ思フヤウニ度クモアハレヌガイカニシテ

モウイコトヂヤホドニ 餘材おすうとうみの流らちーそハ男女  
 の中といふてあぶ中をうくそは又餘材船の名のさう用は

お、久、久

枕より又ー海人も形よ多々海を記あへどりしはさかぬ  
 ○ワシガ恋ヲバ 枕ハトウカラモ知テ井タモアラウガ 枕ヨリ外ニ又ト  
 知ル人モナカワタニ 海ヲドウモエセキトメイテツイトリハツシテモラシ  
 テノケタワイ サテモくソライコラシタカナ

よみ人きりごと

風が吹テ浪ノウチヨセル岸ノ松ハ根カ弱レル抱チヤガワシガ恋モソナ  
 ○風が吹テ浪ノウチヨセル岸ノ松ハ根カ弱レル抱チヤガワシガ恋モソナ

モノカレテ ドウヤラ子ニアラハレテ泣キサウニ思ハル、ドウモコタヘラレ子バサカウ交  
ガカリテハウエイガ 声ヲアゲテ泣クヲ 哥テハ子ニ死シト云ニヨツテサ

けりあわくのいもかきのりし人まほぐし

池よまじひなとくしきけりあはれにかきしとまほぐしとぞれよりり

○池ニ住テアル鴛ノ底ヘカクレト思ヘド 水ガ浅サニアラハレテ死エル

ヤウニワレガ恋モ ウキ名ノタツラ惜ウ思フテ 死トカクシレシブヤウニ  
スルケレド ゼヒモナイハ 人が知タワイ

あふてハ玉のをぶくりくもはもつと吉也の川は流つものをあふ

○玉ラツナグ緒ハズド細イヒヨワイ ワツカナ物ヂヤガ ワレガ中モ 魚ラ  
ムハテウド其玉ノ流グラ井ノワツカナヲテソシテ名ノ立テハ 吉也川は流

音ノ高イクラ井テ ソレハくヤカニイコチヤワイノ

むしをばあちやい ぬか今いふふとあふどもあはれしや

○一 夜立タ名ハ モウドウモセヒガナイ 今サラ<sup>レ</sup>ワヤソシナ

ハナイト云ワケシタトテモ ヤクニタウカイ ナニヤクニタヌヲヂヤ

あしあし かのほおすしきし 餅材より

花小とらとあなハむよまかきし 餅材もふりもまみちよるし

○君ユエニワレカウキ名ハ テウド 野ヤ山ノ花ニ霞ガイチメニタツヤウ

ニトコカラドコデ知ラヌ人モナイヤウニナツタワイナ 花ニ霞ノタツハツ

ライモノヂヤガ ウキ名ノ立タモ同ジクテサテモツライコチヤ

花小とらとあなハむよまかきし 餅材もふりもまみちよるし

仔細

三つとつを枕ごよきを神おとらへぬぬ名のやふまむ

○ナニボカクスゑテモ 枕ハヨウ知ルト云フチヤニヨツテ ワシヤ枕サヘセズ

ニ寐<sup>子</sup>タモノヲ 誰ガニア知テ ウキ名ガバツトテウキタ<sup>子</sup>チヤ

ヤラ塵<sup>子</sup>コソテバツトタツ物ナレ 塵<sup>子</sup>テモナイウキ名ガサニア

やふまむのんはむのん

